

平成27年度第1回秋田市社会福祉審議会児童専門分科会
(秋田市子ども・子育て会議) 会議録

1 日時 平成27年6月5日(金) 午後2時00分～午後3時20分

2 場所 秋田市役所 議場棟 第三、四委員会室

3 出席者

(1) 委員(18人)

柴田誠会長、廣嶋禮治副会長、石川承平委員、大野忠行委員、奥田貴子委員、
小野誠委員、金持史宣委員、佐々木亮次委員、佐藤真知子委員、澤口勇人委員、
富塚リエ委員、中谷久仁夫委員、長谷川元子委員、藤原はるみ委員、
古田由美子委員、細部あけみ委員、山崎純委員、渡辺丈夫委員

(2) 事務局

嶋久美子子ども総務課長、赤上智子子ども育成課長、
佐々木保施設指導室長、奈良美奈子子ども健康課長、
出雲啓子子ども未来センター所長、ほか関係職員

4 傍聴者 2人

5 会議の内容

○開会

○会長選出

○副会長指名

○議事

(1) 第1次「子ども・子育て未来プラン」進捗状況(最終評価について)

(2) 保育サービス等特定12事業の整備目標量について

(3) 就学前児童の居場所と施設数の推移について

(4) その他

○閉会

6 議事要旨

○柴田誠会長

それでは、本日の議事の(1)第1次「子ども・子育て未来プラン」進捗状況に
ついて、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局説明】

○柴田誠会長

ただいまの説明に対しまして、委員の皆さまから、ご質問やご意見を願います。

○山崎純委員

P10の施策310の1「あきた結婚支援センターとの連携による支援」についていくつかご質問させていただきたいと思っております。①まずその取組の具体的な内容ですが、あきた結婚支援センターとどのような連携をして支援をしているのか具体的にお知らせください。②目標値が600人に対して、実績値が721人となっておりますが、実績値が増えた理由と対象者が何人いるのかということをお知らせください。③最後に婚姻数を把握されているのであればその数を教えてください。

○事務局（子ども総務課長）

①あきた結婚支援センターとの具体的な連携については、秋田市では結婚支援センターの運営経費を負担金として支出しています。こちらの負担金は県内各市町村の一律の均等割部分と人口割部分を加えたものです。今年度の負担金は1,701千円となっております。②登録会員数の増については、PRに力を入れた結果によることと考えております。③婚姻率については後日回答させていただきたいと思っております。

○柴田誠会長

あきた結婚支援センターの評価は高く、その理由としては行政が直接お見合いの場を設定してコーディネーターがマッチングをしてくれるというところである。今回、目標値600人に対し、実績値が721人に伸びている原因としては、行政が結婚支援センターの運営に関わっており、信頼・安心して相談が出来るということが成果に繋がっていると考えます。

○柴田誠会長

それでは（2）保育サービス等特定12事業の整備目標量について事務局から説明をお願いします。

【事務局説明】

○ただいまの説明に対しまして、委員の皆さまから、ご質問やご意見を願います。

○柴田誠会長

私から質問いたします。特定保育や夜間保育に関しては実績値が0となっておりますが、これはニーズが無かったと考えてよろしいのでしょうか。また病児・病後児についてはニーズが多かったということでしょうか。

○事務局（子ども育成課課長補佐）

特定保育事業については、12箇所というのは公立保育所の数で、通常の保育の基準には満たない方について、短時間のパート労働者を施設のほうで空きがある状態であれば受け入れをする事業です。H24年度までは1箇所で実績がありました。保

護者の勤務形態が変わりましてH25年度から通常の保育となったためH26年度は実績がありません。こちらは通常保育が優先され、現在は待機児童がでている状況のため実績としては0になります。病児・病後児保育につきましては当初の見込みよりもニーズが高かったことにより実績が伸びているものです。

○柴田誠会長

目標という設定なのか需要の見込みなのか、そこを整理していただけるとわかりやすくなると思います。

○渡辺丈夫委員

目標を設定し、実施となっているが、これに対し評価が必要だと思います。評価の基準に関してはどのようにお考えでしょうか。

○事務局（子ども総務課長）

既に新しいプランが策定され、その中にも目標という言葉が使用されています。評価基準は詳しく記載されているわけではありませんが、一つ一つの事業の中身に応じた基準、指標はあるものと考えており、説明する上でも必要であると考えております。本日の会議ではH26年度の報告ですが、来年度以降はきめ細かな説明と事業の内容に応じた分析に留意したいと考えております。

○澤口勇人委員

病児・病後児保育事業に関わってくるのですが、子どもが病気になってしまった時に、理想的には会社がその保護者に対し、心配なく仕事を休める環境をつくることだと思いますが、実際そういう環境になっていると言われるとそうではない状況です。そこで病児保育を利用するとなると市立病院で2,000円、所得に対しての補助はありますが、実費がかかる。そのあたりが利用したいけれど利用できない、でも仕事も休めないという意見を保護者からよく聞きます。目標値を置くことも大切ですが、それに対して数が増えれば良いというものではないと思います。目標値の設定については何らかの形で表現化しなければならぬと思います。数値目標ありきではなく、その結果や過程についても掌握していくべきだと感じました。

○事務局（子ども総務課長）

今後3年間で1歩進んだ施策を展開し、その過程がどのようになるのか、数値に表れるかを、先ほど申しましたように、詳しい表現で示すこととしたいと思います。

○柴田誠会長

それでは（3）就学前児童の居場所と施設数の推移について事務局から説明をお願いします。

【事務局説明】

○ただいまの説明に対しまして、委員の皆さまから、ご質問やご意見を願います。

○渡辺丈夫委員

H25年度、26年度の認定こども園（幼保連携型）に斜線が引いてありますが、実際には、このくくりの中に認可保育所を併設している認定こども園があるわけです。

が、それは認可に含まれているということによろしいでしょうか。

○事務局（子ども育成課課長補佐）

そのとおりです。

○それでは（４）その他について事務局から説明をお願いします。

【事務局説明】※子育てサービス利用者支援事業の実施について

○柴田誠会長

ただいまの説明に対しまして、委員の皆さまから、ご質問やご意見を願いました。

○山崎純委員

①今までも職員が親身になって相談を受け付けていたと思いますが、今までとこれからの違いを教えてください。

②この事業をこれからどのように評価していくのかお知らせください。相談数が多くなると、それが評価基準になりがちなので、そうではないというところを是非ご検討していただきたいです。

③新制度の利用者支援事業の話が浮上してきたときに、横浜の保育コンサルジュの話、松戸のコーディネーターの例が出されていたかと思いますが、この事業については横浜の保育コンサルジュのモデルになっているものだと感じています。私自身在宅の子育て支援を10年以上やっておりますが、利用者にとっては松戸のコーディネーターの方が良いサービスだと思って見ておりました。今後はコーディネーター事業についてもご検討いただければと思います。既に検討されている場合は、内容についてお知らせください。

○事務局（子ども未来センター所長）

当事業は開始して、まだ日が浅く、今後多くの課題が出てくるかと思っておりますので、その課題を検証しながら進めていきたいと思っております。

①第2次の子ども・子育て未来プランを作成する上で、市民に対するニーズ調査を実施しております。そのなかで、市内には子育てに関する相談員、専門家を窓口配置していますが、専門家への相談の割合は数パーセントとなっております。そこで市民の皆さんには子ナビを利用いただき、子ナビには市民と相談員、専門家を繋ぐ役割をしていただきたいと思います。今までの相談活動を否定するものではなく、より効果的に活用していただくための窓口の一本化と考えております。

②委員のおっしゃるとおり、人数のみの評価では手薄なものかと思っておりますので、例えば1点目の質問に対する回答でも話しましたが、子ナビの役割は市民と相談員を繋ぐものであるため、個別に具体的に対応した事例の件数についても評価していく考えでございますので、全体数と個別数の組み合わせでもって当面はこの事業を評価していきたいと考えております。

③事業が開始して間もないため、今後松戸のコーディネーターを始め、先進地の事例を勉強し、秋田市の子ナビが有効に活用されるように研究していきたいと思っておりますので、3点目については今後の課題とさせていただければと思います。

○藤原はるみ委員

①子育てサービス利用者支援事業について、アルヴェに1名、子ども育成課へ1名職員を配置することとなっておりますが、配置職員のキャリアについてお伺いします。また、この職員は施設の中身についてどこまでご存じなのかをお知らせください。

②職員には直接施設へ足を運び現場を見ていただき、その経験の子ナビとして発揮していただきたいと思っておりますがその点についてはどうお考えでしょうか。

○事務局（子ども未来センター所長）

②委員のおっしゃるとおりであり、今後各施設へ出向き、勉強させていただきたいと考えております。施設見学について文書等で依頼させていただくことがあるかと思っておりますので、各施設にご協力いただきたいと思います。

①2人とも保育士の資格を有しています。1人は市の職員として約40年間保育士として従事された方で、施設の中身についても充分把握しております。もう1人は保育士として約7年ほど従事されていた方です。ただ、新しい事業ですので、勉強しながら実施していきたいと考えております。

○渡辺丈夫委員

横浜のコンシェルジュが成功した理由としては、就労状況によりそれぞれの家庭に見合った入所等のアドバイスをしたなど、適切なアドバイスの結果、待機児童が0となったと伺っております。秋田市にとっても施設の形態や、家庭の就労状況などを総合的に判断した結果、待機児童が減ることになれば、それは大きな成果だと思いますので、その点に関してもよろしくお願ひします。

○事務局（子ども未来センター所長）

当事業が待機児童の減少にも繋がるように、委員の意見も参考に進めていきたいと思ひます。今後お気づきの点がございましたら、遠慮無く担当までお問合せいただければと思ひます。

○澤口勇人委員

今年度以降、秋田市では子ども・子育て会議で何について議論していくのか、何を目指してどのように進めていくのか、また今後の回数についても併せてお伺いします。

○事務局（子ども総務課長）

回数では、今年度は6月、8月、1月、3月の4回ほどの開催を予定しており、8月には施設の認可について審議させていただきたいと考えております。児童専門分科会の設置については、社会福祉審議会条例第6条を根拠としております。

○澤口勇人委員

秋田市において、第2次秋田市子ども・子育て未来プランを策定されましたが、この計画がどのように運用され、どのような結果を生み、次に活かされるのかを考えるのは、役所の悩まれるところとは思ひますが、それをどのようにフォローするかが児童専門分科会の委員の役割かと思ひます。子ども・子育て会議を先進的に行っている都市として一例を挙げると墨田区です。墨田区の委員の代表の方とお話する機会があったのですが、墨田区は秋田市と同じ、委員の中に専門知識をもった方は複数い

らっしゃいます。その委員は専門知識は持っていますが、逆にそれ以外のことについては知識が少なく、意見を言うことができません。そこで墨田区ではワーキンググループを作成し、少人数ではありますが検討をしたそうです。また、シンポジウムを開催すると人数も集まり、市職員がいち発信者として取り組んだことにより、回数を重ねて開催しているそうです。計画の策定までが子ども・子育て会議の役割ではなく、ここからどう評価をしていくかが大事だと思います。私からの提案としては、委員一人ひとりが専門性を出して、秋田市の子どもの為に、意見交換を行い、施策に生かしていくことが必要だと思います。墨田区では子ども・子育て会議で検討している時間が圧倒的に違います。またそれも区民に浸透しているようにも感じました。先進地の取組を参考にし、秋田市だからこそ先進的な取組を今後行っていかなければならないと思います。

○事務局（子ども総務課長）

この会議が児童専門分科会であり、子ども・子育て会議であることは非常に重要なことと認識しています。子育ての施策に関する意見と、立案に対する過程の参加をしていただく会議であると考えております。澤口委員の意見のとおり今後は、委員からの積極的な意見を求めるとともに、事務局でも報告会のようにならないような議題の設定についても考えて行かなければならないと感じました。今後とも秋田市の子育てについて協働で取り組んでいきたいと思っておりますのでご協力よろしく申し上げます。

○渡辺丈夫委員

秋田市の子ども・子育て会議については、他市町村よりも先進的に行ってまいりました。今年度子ども子育て支援新制度が無事スタートできたことは当事者としては感謝しているところであります。先駆けて秋田市で独自にやってこられたことについては、国の指針と異なっているところもありますので、そこは速やかに訂正していただければと思います。特に幼保連携型認定子ども園となったところについては大幅な変更があります。保育所に比べ私立幼稚園については、大幅な変更になっておりますので、そこをできる限り改善していただきたいと思っております。

○柴田誠会長

ほかにございませんか。ないようですので、これをもちまして議事を終了します。